

2021年度事業計画

(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)

I. はじめに

1. 2020年度の概況

2020年度の助成事業については、コロナ禍にあつて海外音楽研修生の選考方法の変更および贈呈式開催の中止を余儀なくされたものの、音楽・地域伝統文化の両分野とも一定数の応募数を確保し、引き続き高水準の助成を行うことができた。

特に、地域の伝統文化助成については、助成金目録贈呈式の開催場所を一次推薦者である各市町村の庁舎で行うことを基本にしたところ、39会場中26会場で庁舎開催することとなった。こうした取組みにより、地方紙等への掲載数は58件と前年に比べ21件増加した。また、令和3年度の申込数はコロナ禍の影響で各保存会の活動が停止している状況から79件にとどまり、前年に比べマイナス59件と低い水準となった。

次に収支状況については、超低金利下において基本財産運用益は、予算どおり3,600万円を確保できる見込みとなった。

経常費用については、予算6,574万円に対し、事業費と管理費の合計は、概ね計画どおりの6,499万円を見込む結果となった。内訳を見ると、選考委員会の開催中止等の影響もあり、事業費は予算に対しマイナス234万円にとどまった。一方、管理費については、事務所移転や感染防止対策等の費用が発生し、対予算159万円の超過となった。

2. 2021年度の基本的な考え方

- (1) 直近の決算状況等を勘案し、2021年度の基本財産運用益は3,400万円を見込み、出捐元からの寄付金と合わせ経常収益は、6,100万円を予算として計上する。2021年度は、当財団設立30周年記念誌の発刊を予定し、一時的な事業費支出は増加するものの、助成金総額は平年度規模を維持する。
- (2) コロナ禍においても優良な助成対象を発掘するため、引き続き申込推薦紹介先ならびに諸関係先や報道機関等に対し事業内容の積極的な情報提供を行うとともに、既助成先へのフォローを継続実施し、公募申込件数の増大に努める。
- (3) 30周年記念事業として、伝統文化分野の記念誌発刊を企画し800万円を計上する。

Ⅱ. 事業分野別 基本計画

1. 音楽分野への助成

～ 若手音楽家の人材育成に対する助成 ～

- (1) 海外における音楽研修に対する助成
- (2) 国内音楽学生に対する奨学助成
- (3) 日本音楽コンクールに対する助成

の3項目についての助成事業を実施する。

2. 地域の伝統文化分野への助成

～ 地域の伝統文化保存維持、後継者育成に対する助成 ～

地域の民俗芸能（民俗行事、民俗音楽を含む）および地域の民俗技術（伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成についての助成事業を実施する。

3. 機関誌の発行

音楽分野および地域の伝統文化分野において、機関誌の発行を通じて芸術文化の振興を図るとともに、既助成先に対する定例的な情報提供とフォローを実施する。

Ⅲ. 具体的な計画事項

1. 若手音楽家の人材育成に対する助成

- (1) 海外における音楽研修に対する助成

若手音楽家が海外の音楽教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深められるよう、新規4名程度に対し、1人年額200万円（2年間）の海外研修費用助成を行う。なお、専攻部門は声楽・器楽とする。

- (2) 国内音楽学生に対する奨学助成

国内音楽学生が良い勉学環境を得られるよう、11音大から各1名(原則3年次生以上)に対し年間30万円の奨学助成(最長2年間)を行う。

- (3) 日本音楽コンクールに対する助成

若手音楽家育成の一環として、『日本音楽コンクール』作曲部門最優秀者に対する「明治安田賞」50万円を日本音楽コンクール事務局に寄託する。

2. 地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事、民俗音楽を含む）に対する助成
地域の民俗芸能の継承、特に後継者育成のための技能修得や継承活動に要する諸費用の助成（道具整備費・研修費・記録保存費等）を70万円限度で行う。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸を含む）に対する助成
地域の民俗技術の継承、特に後継者育成のための技能修得や継承活動（技術の公開を含む）に要する諸費用の助成（道具整備費・研修費・記録保存費等）を40万円限度で行う。

3. 機関誌の発行

芸術文化の振興を図るとともに、助成対象先のフォローと同時に財団のPRも兼ねた財団機関誌2誌を継続して発行し、関係先に配布する。

- ・音楽分野：『いい人・いい音』～2022年1月発行
- ・地域の伝統文化分野：『地域の伝統文化』～2021年10月発行

4. 助成対象の公募・選考と助成の実行

- (1) 海外における音楽研修に対する助成
 - ① 公募の時期
2021年度の助成対象候補者を2021年1月4日（月）～4月9日（金）までの期間、公募を行う。
 - ② 助成対象者の選考
音楽分野選考委員会において、2021年4月24日（土）に申込書類審査と映像資料聴取による第1次選考を行う。引き続き5月20日（木）に実技審査と面接による第2次選考を実施する。
 - ③ 助成対象者の決定
2021年5月開催予定の理事会において、音楽分野選考委員会の選考結果を審議し、2021年度の助成対象者を決定する。
 - ④ 助成の実行(助成金目録の贈呈)
決定された助成対象者を発表後、7月15日（木）に助成金目録贈呈式を実施する。
 - ⑤ 2022年度の公募
2021年度下期開催予定の音楽分野選考委員会において、2022年度の公募方針を検討し、実施スケジュールに即した公募を行う。

(2) 国内音楽学生に対する奨学助成

① 推薦時期

2021年度の新規推薦者を2021年5月7日（金）までに各大学より推薦を募る。

② 候補者の決定

2021年5月20日（木）開催の音楽分野選考委員会において審議を行う。

③ 対象者の決定

2021年5月開催予定の理事会において、音楽分野選考委員会の選考結果を審議し、対象者を決定する。

④ 2022年度の推薦依頼

2021年度下期開催予定の音楽分野選考委員会において実施スケジュール等を検討し、これに基づき推薦依頼を行う。

(3) 『日本音楽コンクール』作曲部門に対する助成

上記に加えて、従来どおり「明治安田賞」を日本音楽コンクール事務局に寄託する。

(4) 地域の伝統文化分野に対する助成

① 公募の時期

2021年度下期開催予定の伝統文化分野選考委員会において、2022年度の公募方針を検討し、実施スケジュールに即した公募を行う。

② 助成対象先の選考

2022年2月開催予定の伝統文化分野選考委員会において助成対象先の選考を行う。

③ 助成対象先の決定

2022年3月開催予定の理事会において、伝統文化分野選考委員会の選考結果を審議し、2022年度の助成対象先を決定する。

④ 助成の実行(助成金目録の贈呈)

決定された助成対象先を発表後、第一次推薦者である市町村教育委員会の庁舎もしくは、明治安田生命保険相互会社の各地の支社（原則として道府県庁所在地の支社）において、助成金目録贈呈式をそれぞれ実施する。